








①事業実施報告書詳細

事業実施報告書詳細

学校名 たつの市立新宮小学校

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	子どもの反応
①	教室	7月, 歴史をPRするための学習計画を立てる。		土器づくりと風土記をもとにPRしようとする。
② ③	図工室	7月, 市教委文化財課の先生を講師に, 土器づくりをする。完成した土器は, 約1ヶ月の間, 陰干しをする。		昔のつくり方を体験し, 当時の人々の工夫を実感できた。
④ ⑤ ⑥	国指定新宮宮内遺跡	8月末, 学校に隣接する国指定遺跡で, 泥釜をつくり, 土器を焼く。焼く時間は約36時間。		泥釜づくりは, まず木を組み, わら, 泥と順に作業した。子どもは当時と同じ工法に感激していた。
⑦ ⑧	国指定新宮宮内遺跡	次の日の夕方, 窯出しを行った。入り口付近の土器は壊れているものもあったが, 予想以上にうまくできた。		夜も早朝も見学に来る子が多かった。約600度の釜の中の様子に驚いていた。
⑨	教室	壊れた土器を粘土で修正し, 色づけをする。		文化財と同じような修理の仕方を体験し, 壊れていた児童も納得していた。
⑩	竪穴住居	遺跡の竪穴住居内で土器展を開催し, 地域の方に紹介する。		タブレットで, 今までの作業過程も紹介し, 見学者の喜ぶ様子がうれしかったようだ。

⑪	教室	41人を5人ずつに分け、校歌からふるさと新宮の歴史と自然のよさを表した言葉を集め、整理する。		校歌にある「おおとり」って何？大鳥山かな？今までなにげなく歌っていた歌詞に疑問が出る。
⑫	教室	播磨国風土記の文をもとに新宮地区にかかわる「阿笠村」, 「大鳥山」, 「飯盛山」, 「新田山」の記述を探し、内容を予想する。		1300年前に大鳥山や新田山などの話が書かれていたことに驚く。
⑬	市の埋蔵文化財センター	4つの話について、文化財課の先生に質問し、ストーリーづくりのための事実を見つける。		グループごとに話を予想し、主体的に当時の様子を調べようとする事ができた。
⑭	教室	4つのグループに分かれ、調べた事実をもとに絵本の柱をつくり、全体で確認する。		国語学習での起承転結を活かし、絵本のストーリーを工夫した。
⑮ ⑯ ⑰	教室	絵本のストーリーと絵づくり作業。作業後、全体で校正し、さらによりよい作品へとする。		よりよいストーリーにするためにみんなで時間をかけて話し合った。
⑱ ⑲	飯盛山 新田山 他	飯盛山へ登り、阿笠村や大鳥山、新田山の様子をみる。 新田山に登り、2つの岩を確認する。		昔の人が見た景色を同じように見て感激していた。景色のきれいさも実感できた。
⑳	教室	市内在住の絵本作家に絵を見てもらい、修正ポイントを聞く。		時代背景やこだわりの部分を聞くことができ、参考になった。

⑳	教室	絵本作家のアドバイ スをもとに修正し、絵本 を完成させる。		みんなで再度、 役割を決め、作業 した。ゴールが見 え、やる気も伝わ ってきた。
㉑	特別教室	地域の方、5年生など 約100名を招待し、今 までの活動の成果を発 表する。 一部：活動の経過 二部：絵本の紹介 講評は市教委文化財課 の先生。	 	成果発表会に向 けて、主体的に話 し合い、役割から 進行までを考える ことができた。 参加したみなさ んからの感謝の言 葉に、人の役に立 てたことへの実感 がわいていた。
㉒	埋蔵文化 財センタ ー、図書 館 ほか	市内の印刷業者を経 て完成した絵本をお世 話になった方、市内の公 共施設に届ける。		完成した絵本が 予想以上のできば えで、感激すると ともに、一人でも 多く方に読んでほ しいと思った。

## ②学習指導案（計画段階の指導案。（修正版でも可））

### 学習指導案（計画段階の指導案）

単元名 (全 時間)	遺跡と風土記のまち「しんぐう」PR計画 ～播磨国風土記1300年を記念して～（全23時間）
学習のねらい	国指定新宮宮内遺跡や播磨国風土記に関するガイド活動を通して、歴史 への関心を高めるとともに地域の宝への愛着を育む。
学習内容	1 泥釜で土器づくりをし、国指定遺跡の竪穴住居で土器展をする。 2 校歌の歌詞をきっかけに播磨国風土記との関連を考える。 3 校区にかかわる播磨国風土記の記述から当時を想像し、絵本に表す。 4 地域の方や在校生を招待した学習成果発表会を開催する。
参考資料 準備品 実施場所等	播磨国風土記資料、国指定新宮宮内遺跡、播磨国風土記記載の名所

学習の流れ：全23時間（☆評価規準）

見 通 す	<p>第一次 計画を立てよう（1）</p> <p>○学習計画をつくる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生までの活動や社会科学習での知識から遺跡でできることを整理する。</li> <li>・校歌の歌詞をもとに播磨国風土記との関連を探る。</li> </ul> <p>☆学習の見通しを持つことができたか</p>	<p>他教科等との関連</p> <p>社会</p> <p>○大昔のくらし 弥生時代の生活について理解する。</p> <p>○奈良時代のくらし 風土記をつくった経緯について考える。</p>
	<p>第二次 遺跡や風土記について調べよう（10）</p> <p>○遺跡の見所を整理する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・竪穴住居や弥生土器の特徴や米作りの様子を整理する。</li> <li>・当時の弥生土器づくりを体験する。（泥釜による作業）</li> </ul> <p>○新宮とかかわりのある播磨国風土記の内容を調べる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書資料から調査する。</li> <li>・埋蔵文化財センター学芸員と連携し、詳しい調査を行う。（現地調査：新田山 大鳥山 飯森山）</li> </ul> <p>☆ガイドに向けた必要な情報を得ることができたか</p>	<p>国語</p> <p>○わたしたちのまち ・どんなまち まちの特徴について整理し、具体的に伝えることができる。</p>
か か わ る ・ 探 究 す る	<p>第三次 探究したことを表現しよう（9）</p> <p>○竪穴住居で土器展をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3基のうち南側の1基をミュージアムとし、活動写真、土器などを展示する。</li> <li>・自治会とタイアップしたガイドを実施する。</li> </ul> <p>○播磨国風土記を絵本にまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県考古館作成の紙芝居を参考に、小学生を対象とした絵本を作成する。</li> <li>・成果発表会で披露する。（2月中旬予定）</li> </ul> <p>☆伝えたい内容を具体的に表現できたか</p>	<p>図工</p> <p>○土でつくろう、 わたしの世界 感じたことを工夫して表現する。</p>
ま と め る ・ 伝 え る	<p>第四次 成果発表会をしよう（3）</p> <p>○成果発表会をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方、5年生を招待し、伝える。</li> </ul> <p>○パフォーマンス評価をする（思考ツール活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動記録をもとに、成果と課題を分析する。</li> </ul> <p>○絵本を届ける</p> <p>☆活動成果を伝えたり、具体的にふり返ったりできたか</p>	<p>身につけさせたい力</p> <p>○学ぶ意欲 ○探究する力 ○かかわる力 ○伝える力 ○評価する力</p>
い か す	<p>日常化への実践力 地域の歴史に興味を持つ。具体的に表現しようとする。</p>	<p>ゲストティーチャー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市文化財課</li> <li>・市立図書館司書</li> <li>・市内在住絵本作家</li> <li>・連合自治会</li> </ul>

### ③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <p>今年は、播磨国風土記が編纂されて1300年の記念の年。万葉仮名で書かれたこの風土記を子どもが中心になって絵本づくりをした例はなく、そこを子どもたちの活動へのモチベーションとした。</p> <p>より本物の絵本に近づけるため、歴史的な監修を市教委文化財課の先生、絵の監修を市内在住の絵本作家さんをお願いし、印刷についても業者委託することにした。そうすることで、子どもたちは、本気で取り組むことができた。</p>
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <p>万葉仮名での文しか資料がないため、そこから事実に基づいたストーリーづくりに、時間を要した。子どもらしく作成すると、ファンタジー性が強くなってしまうので、子どもたちが主体的に事実に基づきストーリーを考えるよう働きかけた。</p>
<p>(3) 児童の反応</p> <p>子どもたちは、歴史学習の集大成として、本気の絵本づくりをしようと意気込んでいた。今まで天神山と思っていた所が飯盛山だったり、大鳥山の由来を知ったりすることで、より地域が好きになったように思う。</p> <p>なにより、発表会を通じて、地域のお年寄りも知らない事実を絵本にしたことに感謝され、喜んでいて。また文化財課の先生や絵本作家さんからほめられたこともかなり自信になったようである。</p>
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <p>本単元は、泥釜による土器づくりや播磨国風土記を扱った。そのため、担任は、子どもたちと専門家をつなぐコーディネーターに徹した。その結果、子どもたちが本気になって取り組む様子をよりサポートしたいという思いを強くした。</p> <p>子どもたちが活動する様子を見て、絵本もできる限り、図書館や埋蔵文化財センター等の公共施設にもおいてもらえるような仕上げにしたいと思った。それも本助成のおかげである。</p>
<p>(5) 今後の課題と取り組み [児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等]</p> <p>播磨国風土記は、全国で5つしかない風土記の一つである。それだけ貴重な資料であるが、小学校では教材化されていなかった。今年は、はじめて播磨国風土記を教材化し、新宮小校区の4つの話を取り上げたのであるが、学習価値が高いことが分かった。</p> <p>そこで、まだ新宮地区には記述があるので、今後も6年生は継続的に取り組みを進めたいと思う。絵本、紙芝居など子どもたちがまとめた方法で発信できればと思う。そのために専門家との連携を継続していきたい。</p>